

(様式3)

自己評価結果票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>基本理念の一つであるである「社会参加」を「地域に根ざした暮らしの継続」ととらえ、積極的に出かけたり、イベントに参加しているが、加齢とADL低下により次第に回数、人数が減ってきている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を具体的な言葉に置き換え、各ユニットの目に付きやすいところに掲示し、自分たちのケアが理念に合ったものかどうかを振り返るよりどころにしている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>法人の機関紙を年4回発行。自治会、民生委員、市役所、社会福祉協議会に配布している。また家族にはホーム便りで理念や日々の生活の中での取り組みを伝えることにより理解していただくようにしている。法人職員がコミュニティーの会議や福祉ネットワーク会議に出席。理解を得るようにしている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>通勤途中の挨拶、散歩中の立ち話など自然になじみの関係は出来ている。苑のお祭りに近隣の方へ参加をよびかけている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>法人は自治会に加入。地域の行事、清掃活動には出来るだけ参加するようにしている。地区の中学生の「トライやるウィーク」受け入れ、終了後も苑のお祭りにボランティアとして来苑するなど交流を深めている。利用者は老人会の催しにも招待を受け参加している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 第三者評価を実施する意義を理解し、評価 を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこの意見をサー ビス向上に活かしている</p>	<p>推進会議メンバーにキャラバンメイト2名を加え 話に広がりが出てきた。評価後の改善への取り組み を報告。今回の5, 8の項目を会議時に一緒に評 価した 。</p>	<p>3ヶ月に1度の現状をなんとか2カ月に1度の開 催に向け働き掛けているが、多忙で出席率が低下 するより、内容の濃い3ヶ月に1度で良いとの意 向が大半であった。視点を変え、利用者、家族に 参加を呼びかけ発言や提言を頂けるように、構成 メンバーを流動的にしての開催を検討したい。</p>
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以 外にも行き来する機会をつくり、市町とと もにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>情報提供の項目、自己評価票、第三者評価結果 票、運営推進会議録の送付など、情報提供はして いる。介護保険の改定で集団指導や相談する機会 が増えた。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援してい る</p>	<p>現在利用者なし。必要があれば直ちに相談できる 体制がある。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>市の集団指導時に身体拘束、虐待の研修があり、 ワーカー会議時に伝達研修をした。日常のケアを 振り返りどのような行為、言葉が虐待や身体拘束 に当たるのかを話し合う機会を持っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間をとり重要事項を説明。疑問や、不安を引き出すようにして、納得、理解を得た上で契約している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>あらためて意見を聞く場は設けていないが、日頃の会話や態度からその思いをくみとり実現するように心がけている。不安や意見はユニットのミーティング時に話し合い共有の情報としている。他部署の職員の出入りや実習生の受入れで、利用者はGHの職員以外と話をすることがある。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>法人の機関紙やホーム便りで、日頃の暮らしぶりや行事の報告をしている。個々の健康状態の連絡は随時。買物等は全て立替払いとし請求書と共に、レシートを送付。金額のはる物はあらかじめ了解を得ている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会と、クリスマスパーティーの年2回家族と会食。家族会では意見交換の場を設けている。外部評価時の家族のアンケートは貴重な意見として受け止め、反映するように心がけている。家族訪問時にも雑談の中から苦情や希望を出せるような雰囲気をつくるようにしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ワーカー会議やミーティングのみならず、通常の業務の中でも随時職員からの意見を聞く環境を整え、出た意見に対しては検討し合い、反映しているよう心がけている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況や、職員の様々な希望に対して柔軟な勤務体制、ローテーションを組んでいる。ホーム長はシフトに入らず、全体を把握し柔軟に動けるようにしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度法人内の職員の異動があり、特養経験者1名を迎えた。介護を要する利用者が増えておりプラスになっている。引継ぎには時間をかけスムーズに移行できるようにしている。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加できる環境があり、その報告を会議やミーティングで行うことで、他の職員も共通の知識を得ている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内の宅老所、グループホーム連絡会に加入して勉強会、研修会に参加している。市内の同業者とは認知症サポーター養成のための「認知症学習会」講師として集まり顔合わせをした。その後電話での情報交換が出来るようになった。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ホーム内に休憩場所を設け、休憩時間の確保に努めている。随時職員からの話を聞く体制を整えストレスの軽減や、職員間の親睦の場で気分転換を図っている。休暇希望は殆ど申し出通り許可している。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	施設長、管理者は人事考課により職能把握に努め、年1回の面談時に個々に対し課題を提示し、向上心を持って働く環境をつくっている。又資格取得を奨励し評価している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に自宅を訪問し、本人の置かれている状態を把握し、不安や困っていることを理解するよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>自宅を訪問し、家族の不安、困っていることをゆっくり聴きだす機会を大切に信頼関係を築くようにしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居に至るまでは担当ケアマネジャーとの連携をはかり必要な情報の授受をしながら進めている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前の面談で不穏になりそうな人の場合は家族に2, 3日宿泊をお願いして双方が安心できるようにしている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者を「お客様」ではなく「共に生活する人」として接し、互いに頼ったり、頼りにされたり関係を築いている。教えられた様々な生活の知恵を職員の共通の知恵とし、共に楽しい時間を過ごせるよう努めている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	些細な変化や言動を報告し、喜びや不安を共有して共に支えあう関係を築いている。アルツハイマーによる症状の進行は「一緒に学んでいきましょう」の姿勢で接し不信感を与えないように配慮している。		
29 利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の思い、家族の思いを伝える媒体になっている。疎遠になっている場合は電話で近況報告や相談をし、それとなく来苑を促したりしている。日常生活のひとコマの写真をロビーに展示している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の面会、入居前に通っていた教会の神父様の来訪や女学校時代の友人宅への訪問など家族の協力を得ながら行っている。外泊時に自宅近くの馴染みの美容院を利用している人もいる。年2回(家族会、クリスマス会)共に会食する日を設けている。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別対応はもちろん、利用者同士が楽しい時間を過ごせるよう職員が調整役となって支援している(トラブルの状況を把握し、フォローする)。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了者はほとんど特養、療養型入所である。面会に行ったり、家族にボランティアのお願いをしたりして継続した関係を大切にしている(お祭りの手伝い、絵画教室の講師など)。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の意向の把握が困難な場合入居時に作成した生活歴や家族からの聞き取りにより検討するようにしている。利用者が発するサインを見逃さず「なぜ？」を追求し思いを把握するように話し合っている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用者や家族、関係者から話を聴き「私は・・・」で始まる生活歴を文章化することにより、本人の思いに気づき、ケアに生かせるようにしている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>利用者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、小さな変化も見逃さないよう記録、報告し合い職員全員で共有している。その日の状態に合わせて対応する(食事の時間、排泄の状態など)。</p>	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者・家族の思いや意見を聞き、反映させると共に、必要があれば他部署とも連携を取り、個別に介護計画書を作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護度変更時、退院時、状態の変化などにより、カンファレンスや連絡ノートでケア内容を周知する。介護計画書を6ヶ月毎に見直し、家族の承認を得る。又月初のケア記録にケア内容記載欄があり、月末に評価し、翌月の内容に反映させている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを作成、身体的状況や日々の様子を記録し、職員が共有。日々のケアに反映しているようにしている(特変ない場合も1日1行は記入するよう心がける)。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	20年1月より開業医による訪問診療を9名利用。速やかな対応で入院に至らないケースや希望により終末期の入院の回避が出来るようになった。故郷訪問などの希望があれば、実現への準備はできる。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	幼稚園、小学校、中学校との交流。地域の「清和台こども見守り隊」への協力。自治会やコミュニティー主催に地域の催しへの参加を楽しんでいる。		
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特になし		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと協働で「認知症サポーター養成講座」に関わり、地域資源の一つとしての役割を担っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時のかかりつけ医で受診、受薬の人、併設の特養診療室の医師が主治医となる人、開業医の訪問診療を利用している人と夫々の希望により対応している。医師、看護師、職員、家族が情報を共有し、不安なく過ごせるようにしている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居前のかかりつけの精神科医に引き続き受診している人。新たに相談や往診をお願いした人もいて個別に支援している。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	医療連携体制で契約していた訪問看護ステーションの看護師を職員として配置し、日ごろの健康管理や医療面での相談・助言・対応をしている。夜間急変時オンコール体制も整っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	必要に応じ、家族や病院関係者とカンファレンスを行い、速やかな退院支援に結びつけている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応、終末期ケア対応指針を示し同意をもらっている。家族、医師、看護師、職員が話し合いの場を繰り返しもつことで信頼関係を築き、20年度1名を見送った。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	必要に応じワーカー会議やミーティングでターミナルケアについて話し合ったり、看護師に今後予測される事態につき話を聞く機会をもつ。家族もチームの一員として位置づけ、日々変化する容態をチームが共有することにより、不安なく対応ができるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>受入れ時は家族やケアマネジャーと情報交換を十分に行い生活が継続できるよう配慮している。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>月1回の会議や、毎朝のミーティング時に、常に利用者のプライバシーを損ねるような言葉掛けを行っていないかの確認を行っている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>基本理念にあるように、利用者の決定を待つ姿勢、意思を引き出す言葉掛けを心がけている</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるものの、特に時間を区切るようなことはせず、個々がしたいことをできる限り取り入れ、一日が楽しく過ごせるよう配慮している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>個々の生活観に合わせ、化粧をしたり、マニキュア毛染めやパーマ、外出時の装いなど、おしゃれを楽しんでもらえるようにしている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		<p>「時間がない」「調理できる人が少なくなった」等の理由でスタッフが調理してしまう状況が自己評価をきっかけに明らかになった。ワーカー会議で暮らし全体の中で食事の準備や片付けが暮らしの中で占める重要な位置にあることを確認し時間、手順を工夫し「共に行く」よう話し合った。</p>
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>入所時に生活歴を聞き取り、好きなことや得意なことを事前に把握しておくことで、入所後それらを生かした生活が送れるよう心がけている。その人に合わせて好きなこと、出来ることを見極めレクリエーションや行事に誘っている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に出かけた際は、自分で好きな商品を選び、自分の手でお金の支払いをしている。家族の了解を得て少額のお金を持っている人もいる。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の気分や希望に応じて、散歩や買物、自宅への帰宅やドライブ、外食等外に出て季節を感じてもらえるようにしている。		更に日常的に一对一の外出の機会を増やしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠くへの外出の際は、事前に計画書を作成し、職員の勤務調整を行うと共に、必要であれば家族やボランティアに協力を依頼している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に電話を引いている人3名。希望があれば日常的に電話ができるよう支援している。家族からの便りに返事が出せるよう自作のはがき絵や絵葉書を用意している。また年賀状を出すための支援を行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間などは定めておらず、家族の都合の良い時にいつでも気軽に来やすいような雰囲気作りを心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体の身体拘束委員会(月1回開催)の内容をワーカー会議、ミーティング時に伝達している。「清和苑における身体拘束を行わない取り組みについて」を会議時に配布したり、集団指導時の内容を伝達研修し周知に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる		
67	利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる		「ヒヤリはっと」報告書20年度53件。うち転倒骨折による入院は1件。些細な気付きを積み重ね周知することにより大きな事故の回避につながっている。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている		学習会へのパート職員の参加が課題。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		法人内異動で防火管理者の有資格者が配属になった。グループホーム独自のマニュアルを作成していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	外出等、様々な活動をする際や状態の変化によるリスクを家族と話し合い納得してもらうようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の看護師による様子観察と週1回のバイタル測定で普段の状況を把握。毎朝のミーティング時に体調の確認を行い、体調不良があればホーム長と看護師に報告する。夜間の体調変化に備え看護師との連絡体制を整えている。		
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	3食分に分かれた服薬ケースを使用し、誤薬や服薬忘れがないようにしている。個々に応じた服薬介助をしている。		
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一日一回乳製品と寒天を摂取し、散歩や体操など身体を動かすことで自然排便を促している。便秘がちな人に対しては、ヨーグルト、バナナ、腹部を温めるなどの配慮をしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時、夕食後には全員の口腔ケアを個別に行っている。自立者へは夕食後の声かけと確認をしている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分摂取量を毎日記録し、職員がその情報を共有している。摂取量の低下が見られた際は個別に好きな飲み物や食べ物を提供することで水分や栄養バランスの確保に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策委員会があり各事業所共同で取り組んでいる。感染症対策のマニュアルの整備をしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用した調理器具や食器はすぐに洗浄、乾燥する。ふきんやまな板は随時漂白をし清潔に努めている。購入の日付を記入、日曜日は冷蔵庫内の点検日とし常に新鮮で安全なものを提供するように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門扉横のスペースに季節ごとの花を植えベンチ、テーブルを置き利用者の大好きな場になっている。通りすがりの人と花を愛でたり挨拶を交わしたりする場でもある。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	白熱灯でやわらかな照明と障子、日差しを遮るよしずがあり、季節感のある装飾と併せて、落ち着いた雰囲気になるようにしている。廊下のベンチやすみのソファで一人で、または二人で過ごす人もいる。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が一日の多くを過ごすフロアーには、ソファや畳の間があり、テレビやエレクトーンを置いている。廊下のベンチで一人過ごす人、2人で話し込む人、夫々の過ごし方がある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

同一敷地内の事業所(特養、ケアハウス、デイサービス、居宅支援事業所、地域包括支援センター)との連携が密にあり、各種委員会(身体拘束、事故対策、防災対策)が設けられ、共に協議、研修する事で広い視野でものごとをとらえ、より安心で安全な生活が提供できるようにしている。又、合同の行事や園児、小中学生との交流が頻回にある。

認知症サポーターの実習の場を提供したことで地域との連携ができつつある。